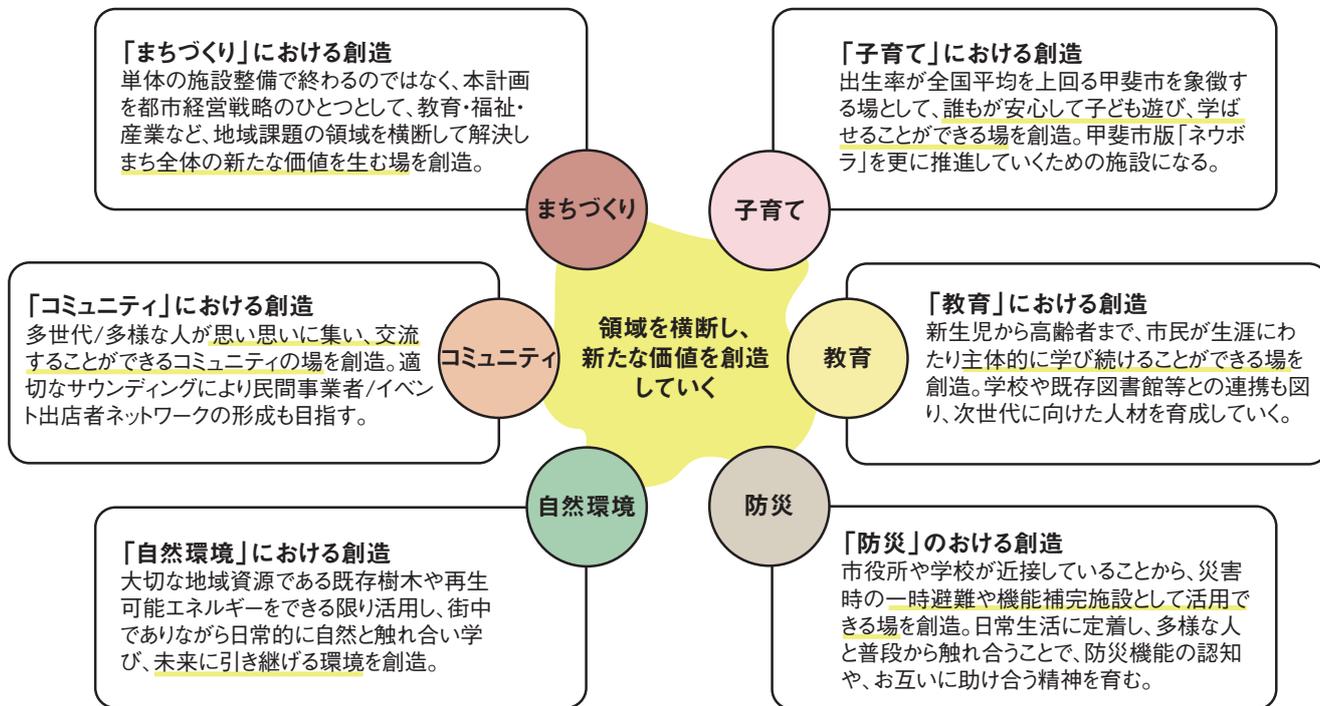


(1) 計画説明書 (公園部・建築物)

1. 空間活用コンセプト

基本計画で策定された「次世代へつなぐ創造の森」の実現に向け「まちづくり」「コミュニティ」「子育て」「教育」など様々な領域を横断しながら地域の新たな魅力や価値を生み出す創造拠点を整備。子どもを中心としながらも「市民の誰もが気軽に訪れ、生活の質向上に寄り添う公園」を目指す。



2. 与条件整理

基本計画及び、市へのヒアリング等を踏まえた基本プランの考え方を確認し、実現に向けた課題を整理するとともに、導入機能について検討した。

①公園部

基本計画での配置案に対し与条件や今後の検討課題を整理した【別紙1】参照  
なお、駐車/駐輪場については下記のように整理した。

分類	記号	項目	数量	単位	式	備考/出典
来園者数	A	年間目標来園者数	127,750	人		公園+複合施設の来園者想定
	B	開園日数	365	日		想定 (公園は休日なし)
	C	平均来園者	350	人/日	A/B	施設+公園利用想定者数からの想定
	D	平日・休日の比率	平日1:休日1.5			休日は来場者1.5倍と想定
	E	平日平均来園者数	350	人/日	C*1	
	F	休日平均来園者数	550	人/日	≒C*1.5	
	G	ピーク時の集中度	25%			12時間営業/平均3時間滞在と想定し設定
	H	ピーク時の来館者数 (平日)	90		≒E*G	
	I	ピーク時の来館者数 (休日)	140		≒F*G	
駐車場	J	来館者の自動車利用率	60%			山梨県甲府都市圏総合交通体系調査報告書(06年)を参考に設定
	K	同乗者数	1.5	人		家族や友人と訪れることを想定し設定
	L	必要駐車台数 (休日ピーク時)	55		≒I*/K	
駐輪場	M	来館者の自転車利用率	30%			山梨県甲府都市圏総合交通体系調査報告書(06年)を参考に設定
	N	必要駐輪台数 (休日ピーク時)	40		≒I*M	

※車椅子利用者用駐車場は「都市公園の移動円滑化整備ガイドライン」を参考に駐車台数が200台以下の場合には1/50を乗じて得た数以上とする



(2) 平面計画図 (公園部・建築物)  
 (仮称) 篠原地区公園整備 配置イメージ (案)



- イベント広場  
 ・マルシェや市民イベントを想定した広場を計画  
 ・雨天時を想定し屋根付き広場が隣接する空間を想定  
 ○設計時の検討課題  
 ・キッチンカー等が設置しやすい傾斜仕様/導線計画を検討

- 子育て支援複合施設 (体験学習施設)  
 児童センター/幼児スペース  
 ・屋内遊戯スペース(多目的室、旧緑化センターの施設機能(緑の教室)などを活用)  
 ・壁しもが楽しめるインクルーシブデザインに配慮  
 ○設計時の検討課題  
 ・既存樹木との関係性を考慮した建築プランの検討  
 ・一戸建跡地を想定した建物高さの検討  
 ・隣接する公会堂との位置関係  
 ・洪水時の想定浸水深さを考慮した階数/階高の検討  
 ・遊具機能についてはサウンディング調査等で確認して検討  
 ・遊具形態についてもサウンディング調査等で確認して検討  
 (指定管理制度の導入必要性等)

- アプローチ  
 ・バリアフリーに考慮した誰もが移動しやすい導線  
 ・転むが感じられぬを確保した空間計画  
 ○設計時の検討課題  
 ・道路と敷地の最大1.5mの高差解消方法の検討  
 (階段/スロープの設置や床土など)

西側エリア

メインとなる子育て支援複合施設やイベント広場などを整備するエリア

- 駐車場①  
 ・障がいを持った方、子ども連れの方が優先的に使える駐車場を施設近くに配置  
 ○設計時の検討課題  
 ・バス停留所/タクシー乗場/駐輪場の配置計画  
 ・EVステーションの設置  
 ・用に限らずに建物まで入れる考慮計画  
 ・バリアフリーに配慮した設計

- 駐車場②  
 ・週末など稼働率が高い場合を想定した駐車場  
 ・子育て支援複合施設等を整備することから施設機能に応じた加算が必要

- 駐車台数 (施設内容によって今後変動)  
 ・普通車55台(乗用車)+サブ乗用車専用車5台  
 ・都市公園事業施設整備 (平成25年度) によると普通車45台、大型バス3台、身体障害者用1台が目安

- バス駐車場  
 ・市民バス等が駐車/転回できるスペースを想定  
 ・利用頻度が高い一般駐車場を施設近くに優先的に配置  
 ・市内の幼保園や保育園、小学校などの遠征や校外学習でのバス利用を想定

南側エリア

駐車場や防災時を想定した倉庫や調整池等を整備するエリア

- サブ駐車場  
 ・カフェ利用者/管理用の駐車/駐輪場を想定  
 ・メイン駐車場から距離のあるカフェ利用者の利便性向上を想定  
 ○設計時の検討課題  
 ・古村本郷の車両規制時間帯を考慮した運用計画  
 ・通学路があるため車道幅との歩歩分離を要検討

- アスレチックエリア  
 ・子ども達がアクティブに遊べるゾーン  
 ・壁もが楽しめるインクルーシブな遊具/導線計画を検討  
 ○設計時の検討課題  
 ・設置される具体的遊具計画

北側エリア

大きな広場やアスレチックがあり、自由に遊ぶことができるエリア

- トイレ/備蓄倉庫  
 ・公園利用者用のトイレや防災時を想定した備蓄倉庫の設置を想定  
 ○設計時の検討課題  
 ・詳細な形状/配置計画

- カフェ・レストラン  
 ・飲食しながら公園やアスレチックで遊ぶ子どもを見守れる空間  
 ・周辺住宅地に近く、日常的に活用しやすい場所への配置を想定  
 ・Park-PFでの整備を想定  
 (継続的なサウンディング調査が必要)  
 ○設計時の検討課題  
 ・シンボルツリーや駐輪場位置を考慮した詳細配置計画

- 屋根付き広場  
 ・雨天時の利用を想定した屋根付き広場を想定  
 ・アスレチックや芝生広場を見守れる場所への配置を想定  
 ○設計時の検討課題  
 ・カフェやシンボルツリー位置を考慮した配置計画

- 外周道路  
 ・車道に出ず公園内を周遊できる導線計画  
 ・導線を公園内にも引き込み歩みくが楽しめる空間に  
 ・公園への出入口の増設を検討

- 東西横断道路  
 ・隣接する集会所へのアクセスを考慮した導線を計画  
 ・取付歩道を活かした親水空間を検討  
 ・水辺が水質汚染の懸念が行える空間に  
 ○設計時の検討課題  
 ・井戸の掘削/水飲み場などの詳細計画

- 建築/公園共通  
 ・ゼロカーボンの実現に向けた再生可能エネルギーの活用を検討が必要 (太陽光/風力発電/地熱利用等)  
 ・設計とあわせて継続的なサウンディング調査が必要  
 ○公園全体  
 ・防犯など安全確保を確保するための初期性向上の必要がある  
 ・樹木の選定/樹根/樹冠/樹冠の剪定などが必要  
 ・遊具の設置/施設管理の責任軽減のため、指定管理制度の導入可能性を検討

- キンラン/キンラン生置エリア  
 ・エリアへの建築物は不可

- メイン道路  
 ・バリアフリーに考慮した誰もが移動しやすい導線を計画  
 ○設計時の検討課題  
 ・既存樹木を考慮した詳細ルート設計

- 東屋/ウッドデッキ等  
 ・公園内に点在する休憩場所等  
 ○設計時の検討課題  
 ・詳細な形状/大きさ/配置計画

- 道路  
 ・子育て世代を中心とした未読者の安全確保のため歩車道の整備が必要

- トイレ/備蓄倉庫  
 ・公園利用者用のトイレや防災時を想定した備蓄倉庫の設置を想定  
 ○設計時の検討課題  
 ・詳細な形状/配置計画

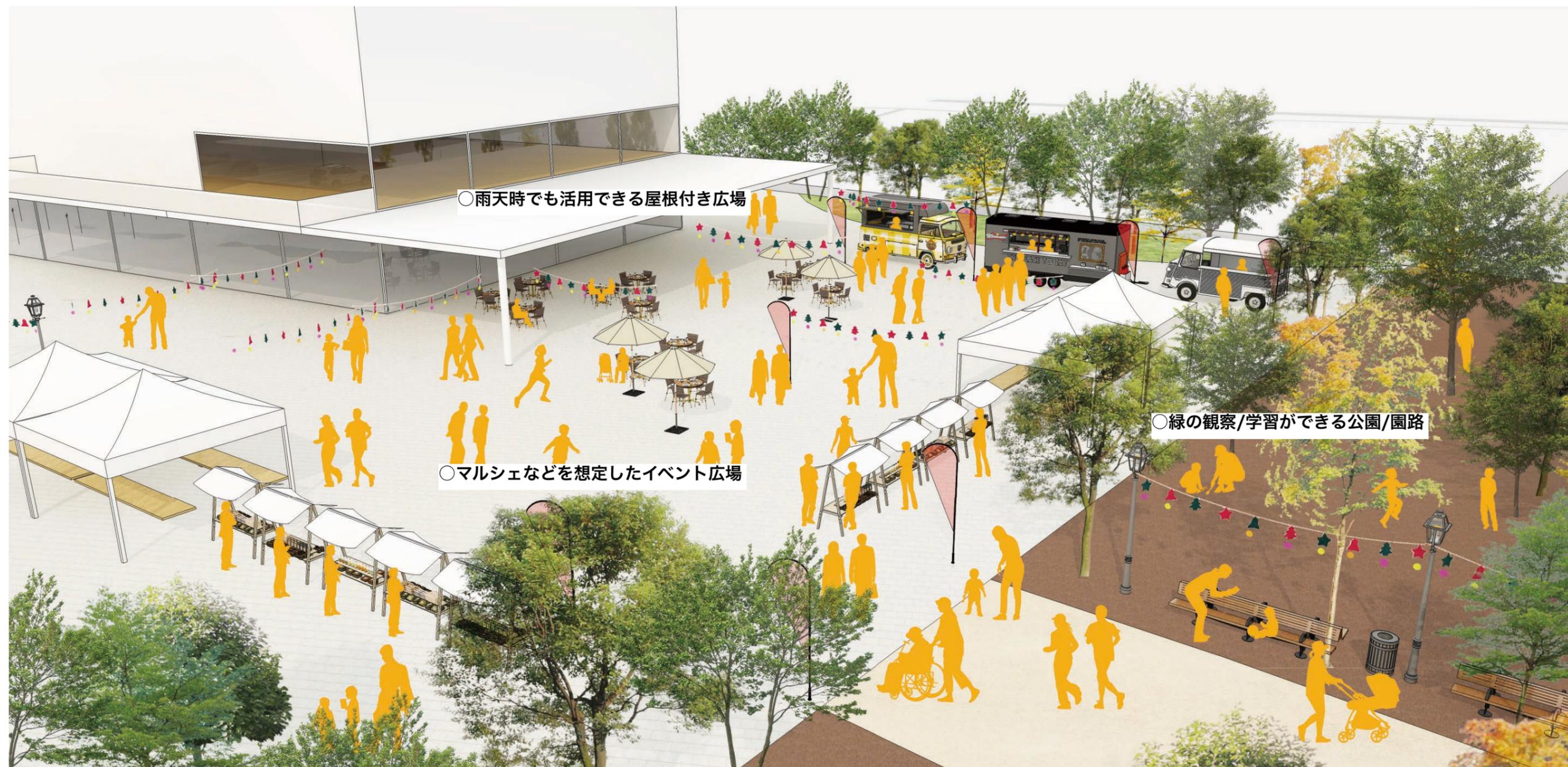
- 東屋/ウッドデッキ等  
 ・バリアフリー設備や歩道内への取付設置は不適切であるが富士山の眺望が良いことから展望施設(眺望デッキ等)の設置は高い  
 ○設計時の検討課題  
 ・詳細な形状/大きさ/配置計画

中央エリア

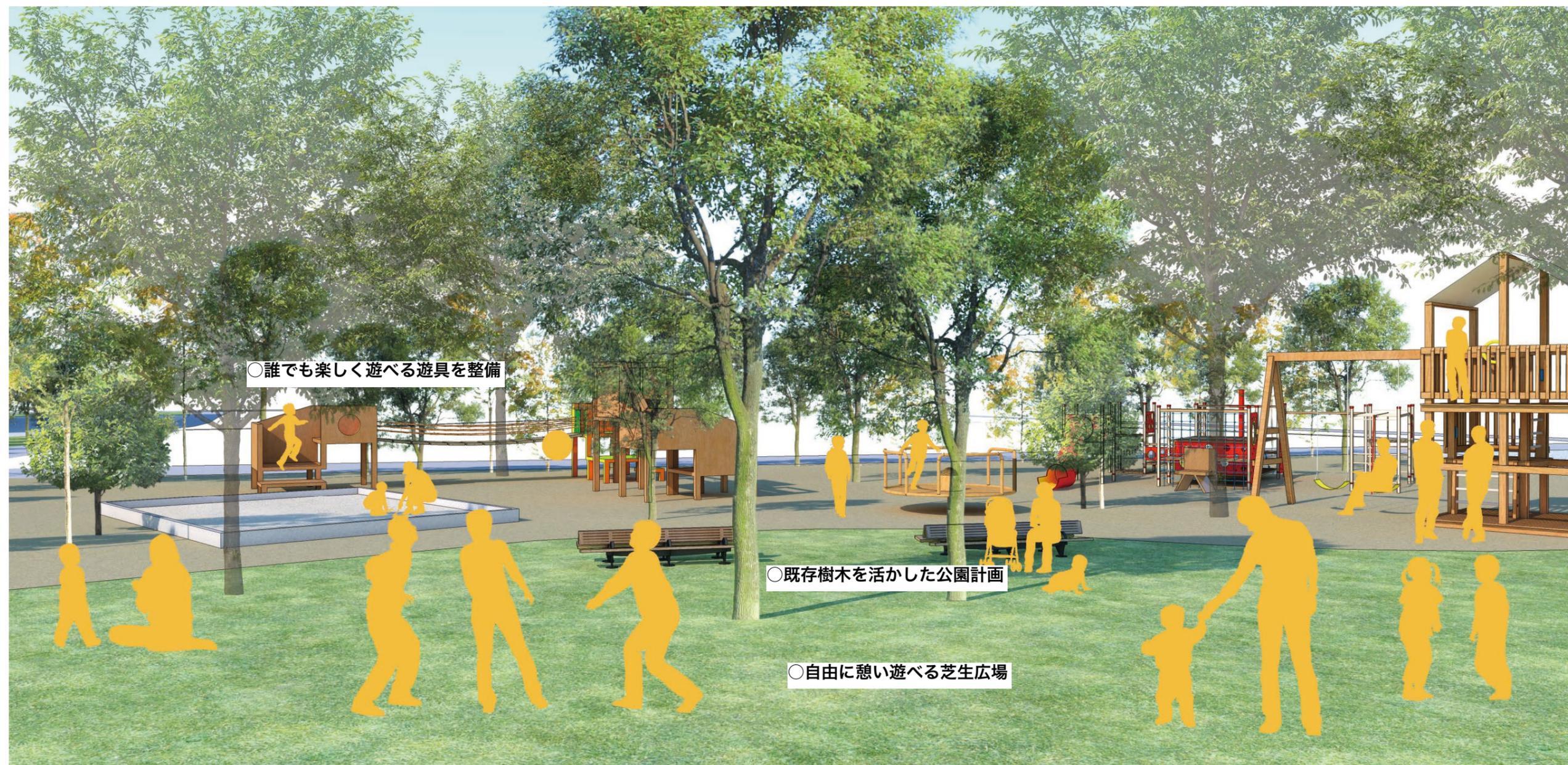
既存樹木をできる限り残した緑の観察/学習空間エリア  
 散策しやすい園路や休憩できる東屋等を整備

□ : 業務委託範囲

(4) イメージパース  
『イベント広場』



(4) イメージパース  
『アスレチック』



## 【別紙3】-①

### ZEB化へ向けた課題整理等

#### ①（仮）カーボンニュートラルパークへの取り組み

甲斐市は、2050年二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」宣言し、その実現に向けた取り組みを推進している。

また、令和5年1月現在、脱炭素先行地域の採択を目指し、計画提案書の策定を進めているところである。

計画素案において、竜王駅～市役所～（仮称）篠原地区公園を繋ぐ地域を、脱炭素先行エリアの1つに定めている。

（仮称）篠原地区公園は、旧山梨県緑化センター跡地の既存樹木をCO2吸収源として活用するほか、建物・公園部においても脱炭素化を図る（仮）カーボンニュートラルパークとしての整備に取り組むものとする。

#### ②ZEBとは

Net Zero EnergyBuilding（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことを指す。

人々が活動する限りエネルギー消費量を完全にゼロにすることはできないが、省エネによって消費エネルギーを減らし、創エネによってエネルギーをつくることで、エネルギー消費量を正味（ネット）でゼロにすることを旨とする。

#### ③ZEBのメリット

「ZEB」にするメリットは、一般的に下記の4点が挙げられる。

##### (1) 光熱費の削減

エネルギー消費量を減らし、光熱費を大きく抑えることができる。昨今の原油や天然ガスの価格が高騰している状況であっても、その影響を小さくすることが可能。

##### (2) 不動産価値の向上が期待できる

地球温暖化問題への対処が課題となっている昨今、「ZEB」実現は温室効果ガスの大幅な削減にも繋がり、一般的な建築物に比べて不動産価値の向上が期待できる。

##### (3) 快適さを維持したエコ貢献

省エネルギー性能を高め、自然エネルギーを上手に活用して空調設備などの制御を行う「ZEB」、快適さを損なわずに温室効果ガスの削減に貢献することが可能。

##### (4) 災害時のエネルギー活用

地震や電力不足による停電が起きた場合であっても、導入した再生可能エネルギーの一時的な使用が可能となる。

#### ④ZEBの種類



【別紙4】

防災へ向けた課題整理等（例）

（仮称）篠原地区公園は、市役所、図書館、交番、消防署、小学校、中学校などの公共施設が集積するエリアに位置し、人口集中地区（DID）にも隣接する立地となっている。

甲斐市洪水ハザードマップによると、想定浸水深0.5～3mの区域であり、公園北側には水害時指定緊急避難場所・指定避難所である竜王小学校が近接している。

本公園は、多くの人が集う交流拠点であるとともに、子育て支援機能を持つ公園施設であることから、災害時に来園者や地域住民が一時的に避難できる場所（一時避難地）に位置付け、地域防災を補完するための整備について取り組むものとする。

項目	備考/検討課題など																																								
建物環境	○地震や水害時を考慮した建築構造を検討する必要がある ○洪水時の想定浸水高さを考慮した建築の階数/階高設定が必要																																								
エネルギー面	○授乳室や更衣室、ユニバーサルデザインの設置は被災時の観点からも設置が望ましい ○再生可能エネルギーや生活インフラ（井戸水の活用、マンホールトイレ、かまどベンチ等）の検討が必要																																								
運営面	○断熱性・機密性に考慮し、室内温熱環境を一定に保ちやすい計画を行うことが望ましい ○被災時における避難や意思決定等の円滑化のため定期的な職員研修や市民との避難訓練の実施が望ましい （日中、夜間、施設利用状況等、様々な状況を想定し、実施することが望ましい。） ○担当者不在時にも備蓄品が使用できるよう保管場所、数量、配布ルールなどが誰でも理解できるマニュアル制作が望ましい																																								
備蓄倉庫の位置	○男女のニーズの違いや子育て家庭等のニーズに配慮し、女性用品、乳幼児用品等の必要とされる物資について、あらかじめ一定程度を備蓄することが望ましい ○子育て支援複合施設に設置する備蓄倉庫については浸水時に流されないよう、2階以上に設置する必要がある																																								
備蓄倉庫の仕様等	○被災による建物の倒壊や建具の破損を考慮し、敷地内の複数エリアに分散して備蓄倉庫を設けることが望ましい ○備蓄物の総重量に応じた床の耐荷重設定が必要 ○備蓄品へのカビ対策として十分な換気/湿度対策が必要																																								
備蓄倉庫の大きさ	○直射日光（紫外線）により備蓄品が劣化しないよう開口部等への配慮が必要 ○1日の最大利用者数500人程度*3日間分の食料/簡易トイレ等を想定した場合、下記目安により最低15~20㎡以上のスペースが必要と想定される （小柄な人が運び出すことを考慮し、備蓄品の積み上げ高さは最大1200mm程度と仮定する）																																								
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>【100名×3日分の目安】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>必要量</th> <th>ケース数</th> <th>1ケースあたりの量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料</td> <td>900食分</td> <td>18ケース</td> <td>50食入/ケース</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>1,800本</td> <td>75ケース</td> <td>500ml×24本入</td> </tr> <tr> <td>トイレ</td> <td>1,500枚</td> <td>15ケース</td> <td>100枚入/ケース</td> </tr> <tr> <td>毛布</td> <td>100枚</td> <td>10ケース</td> <td>10枚入/ケース</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【500名×3日分の目安】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>必要量</th> <th>ケース数</th> <th>1ケースあたりの量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料</td> <td>4,500食分</td> <td>90ケース</td> <td>50食入/ケース</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>9,000本</td> <td>375ケース</td> <td>500ml×24本入</td> </tr> <tr> <td>トイレ</td> <td>7,500枚</td> <td>75ケース</td> <td>100枚入/ケース</td> </tr> <tr> <td>毛布</td> <td>500枚</td> <td>50ケース</td> <td>10枚入/ケース</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p><b>【100名3日分の備蓄スペースイメージ】</b></p> </div> </div>	種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量	食料	900食分	18ケース	50食入/ケース	水	1,800本	75ケース	500ml×24本入	トイレ	1,500枚	15ケース	100枚入/ケース	毛布	100枚	10ケース	10枚入/ケース	種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量	食料	4,500食分	90ケース	50食入/ケース	水	9,000本	375ケース	500ml×24本入	トイレ	7,500枚	75ケース	100枚入/ケース	毛布	500枚	50ケース	10枚入/ケース
種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量																																						
食料	900食分	18ケース	50食入/ケース																																						
水	1,800本	75ケース	500ml×24本入																																						
トイレ	1,500枚	15ケース	100枚入/ケース																																						
毛布	100枚	10ケース	10枚入/ケース																																						
種別	必要量	ケース数	1ケースあたりの量																																						
食料	4,500食分	90ケース	50食入/ケース																																						
水	9,000本	375ケース	500ml×24本入																																						
トイレ	7,500枚	75ケース	100枚入/ケース																																						
毛布	500枚	50ケース	10枚入/ケース																																						
	【参考】株式会社レスキューナウ/防災用品カタログより引用																																								